

微細な経時変化から舗装構造の劣化状況を予測するAIモデルを作成する。
作成したAIモデルは道路管理者向け舗装マネジメントシステム(PMS)に組み込み、全国の自治体などへの導入を目指す。

GPS(衛星利用測位システム)や加速度センサーを取り付けて走行し、「ACTUS」と呼ばれる路面性状計測システムを使用して道路の平たん性や凹凸の程度を評価する指標「国際ラフネス指数」(IRI)をリアルタイムに計測する。高頻度モニタリングによって路面データを取得、分析しAIモデル作成を目指す。

舗装の経時変化を リアルタイム計測

大成ロテックら、AI
モデル作成へ共同研究

大成ロテックと北見工業大学は、舗装の損傷状況把握や健全度を予測するAIモデル作成に向けて共同研究を進めている。普通車に

実証実験は北海道網走市内の道路約450^キで実施。ACTUSによる路面プロフィールを主とする路面性状データの取得と、フォーリング・ウェイト・デフレクトメーター(FWD)による舗装のたわみデータを主とする舗装構造の評価を継続的に行い、路面性状と舗装構造の経時変化を分析する。これまで十分に把握できなかった路面性状の

